

小網代の森を乱開発から守り、子供と子孫に残す活動

小網代の森を守る会

代表 仲沢 イネ子

神奈川県

当報告書は、各活動担当者の記録から、抜粋しまとめたものであり、成果報告書と言えないかも知れませんが御了承下さい。みどり基金支援については、観察会、森案内、パトロール中などに『みどり基金支援シール』を手渡ししながら、呼びかけ、例えば、夏のカニパト中に、約7万円の協力が得られたと言った感じです。カニパトについては、カニパト補助員の謝礼分を支援願い、お陰でアカテガニの放仔の見える7、8月に『カニパトネット'99』第1期～第3期とも生態系を損なわず、観察者の安全がはかれました。また、心配していた森周辺の住民とのトラブルも、まったく起こらず感謝いたしております。

カニパトネット'99の報告

人数は観察者、かっこないはカニパトの人数、後半に生き物の様子を併記

第1期

7/29(木) 75人(13人)

初日に参加者多し、カニも多数。
遅い到着の横浜弁護士会の20人は、イギリス海岸で。

カマキリ、マダラスズ、カクベンケイガニ。ウシガエル鳴く。ボラ、小さいのが多数。

7/30(金) 110人(75人)

高校の生物関係者多数。遅い到着でどれみ幼稚園50人イギリス海岸で。

ハゼを素手で捕まえた。ゴイサギ鳴く。クロマダボタル多し。

7/31(土) 65人(23人)

晴天続きで星もきれい。カニ多い。

クサフグ見る。カヤキリ、ハヤシノウマオイ鳴く。蚊が少ない。沈む直前の金星(下弦)を観測(双眼鏡)。流星多い。

8/1(日) 13人(10人)

参加者ようやく落ち着き、ひっそりと観察。月の出遅くなる。

第1期のその他の様子。

- 高校生、中学生熱心。若者の場としてのパワーが感じられる。特にカニパトの2人有望。
- NHK(10/11の特番)取材6日間。
- 読売新聞写真撮影1日間。
- 北海道からカニパトのO氏4日間奉仕。

第2期

8/12(木) 40人(6人)

5:00打合せ、5:45紙芝居、6:20移動、7:30終了。放仔に集まる♀ガニ非常に多い。観察マナー良好。

アンドククラゲ、タコクラゲ、カワセミ、ボラ(大型)、アオサギ、カラスウリ、ハチジョウナ、ハマカンゾウいずれも開花。

8/13(金) 21人(8人)

放仔固体数多し。クラゲに刺された人有り。観察者の荷物をビニールシートで覆う(小雨)アンドククラゲ多い。タコクラゲ、カワセミ、ボラ、池にカメ。

8/14(土) 23人(7人)

昼間の大雨で海水汚濁、浮遊物多い。水温低く、日没後35分ようやく放仔。アオサギ、コサギ、多数のボラ、ミミズを両手で千切りながら食しているアカテガニ、ハマガニ。

8/15 (日) 8人 (16人)

放仔は7:10頃始まり7:20頃ピーク。

観察者7:25に海からあがる。マナー良好。

カンタン、クロマドボタル、マルタンヤンマ♀
(池に)、ノコギリクワガタ♀ (北尾根) 森でアナ
グマ、アライグマの足跡。トカゲ。

第2期のその他の様子

- 前半アンドクラグ、タコクラゲに刺されることがあった。沖にはいかず、また大群発生時には、避難すること。
- 高潮の際には、子供用長靴は役だたず、運動靴の方が反って良い。

第3期

8/26 (木) 10人 (10人)

5:40紙芝居、6:00移動開始、6:40~50がピーク。7:00水から出る。大型♀多数岩が赤くなる。♂は少数。高潮でクラゲ類多数。大型ボラ、カワセミ、ニイニイゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、アオマツムシ、ヤブキリ、カヤキリ、ハヤシノウマオイ、カネタタキ、ツツレサコオリギ、エンマコオロギ、ナンバンギセル (北尾根)

8/27 (金) 20人 (8人)

波打ち際にゴミや葉多い。放仔固体数多い。物語文化の会7時到着、紙芝居とゾエア観察のみ。帰路カラスウリの花が多い。秋の花のヌスビトハギ、ミズヒキ、ミズタマソウ、他今年は開花が早い。海にミミイカ。

8/28 (土) 35人 (12人)

固体数あまり多くない。試しに置いたお産台(木の棒)も利用していた。森の中ではすでにシロバナサクラタデ満開。べんけん橋でカワセミ。コトヒキの稚魚

第3期のその他の様子

- カニパトのD高校のO君らの紙芝居は、聞き手に合わせ分かりやすく読む完璧なもの。

「フィールドスコープ等活用例その1」

2月27日、当会スタッフ研修会として、日本野鳥の会、神奈川支部の須藤伸三さんを講師として、小網代の森の冬に生息する野鳥の観察会を行った。(通称鳥パト研修会)

10時 京浜急行三崎口駅に集合したのは、スタッフ、フィールドスタッフ等総勢20名弱で野鳥観察には、適した人数。

いつもの通り、30分程度歩いて、小網代の森、水道広場へ。

ここで参加者全員の自己紹介、タカラ・ハーモニストファンド支援によるプロミナースコープ、双眼鏡、野外携帯用双眼実体顕微鏡の紹介がされる。

講師の須藤さんは、まず、野鳥観察に欠かせない双眼鏡の使い方についてレクチャー。今回、初参加のフィールドスタッフのAさんは双眼鏡の用意がないとのこと。早速、タカラ・ハーモニストファンド支援の双眼鏡を首にかけてもらい、左目に合わせた後、右目の焦点を合わせる調整法をやっている。講師の須藤さんに選んでもらっただけあって、視野も広く、明るいレンズでとても見やすい双眼鏡で、初心者にピッタリだ。

森の中央の谷を須藤さんを先頭に入っていく。今回の支援で購入したフィールドスタッフになったKさんのかたで運ばれていく。浦の川の源流から、ミズキ平と呼ばれる辺りで「ギー」というコゲラの声。ミズキの細い幹をまわりながら、登っていくのが分かる。

新しくスタッフになったこB子さんが、先に貸してもらった双眼鏡で言われた方向をめざして、見ようとするが失敗。そうやすやすとは双眼鏡は操れません、せめて丸一日、じっくり鳥と向き合ってみなくては。ともあれ、初使いの双眼鏡にかわいいコゲラとは、ピッタリですよ。

草原の草の実をつつくアオジが私たちの足音に気づいて、飛び去っていく。樹上には、カラの群れと一緒にまざっていると聞くエナガの声が「チー、

チー」と聞こえてくる。

トトロのトンネルの間から、空を見上げると何とノスリがゆうゆうと下を見下ろし、飛んでいる。講師の須藤さんの言う通り、トビをさかさまにした柄で、白い羽根に黒の大きい紋がよく分かる、皆、興奮気味。

フジ、クワのストリートを過ぎて東電の鉄板道の辺りで空を見上げるとノスリとも違う羽根の白い鳥が見つかった。思わず「オオタカです。」と叫ぶと、先に歩いている人達も止まって、西の上空を見上げる。何とノスリともからまった珍しいオオタカの勇姿が双眼鏡に入る。

皆、満足して、河口の石橋で一休み。ここでフィールドスコープの三脚を広げ、じっくり、藤ヶ崎に憩うアオサギの姿を鑑賞。珍しく干潟にはダイサギが来て、カニらしきものを啄んでいる姿を見せてくれる。

重いフィールドスコープは、ここで一番、真価がでてくる。遠くでじっとしている鳥を驚かさないうで、じっくり見られる。大勢の人が順番に見て楽しむことができる。冬、これだけ沢山のアオサギ（50羽以上）が見られる所は他に知らない。しかも、初夏ともなれば、このフィールドスコープは、この場所に据え、数知れぬチゴガニが一斉にはさみを振って、メスを呼ぶ姿を見るのに使える。干潟に下りて、チゴガニを見ようとすれば、足音を感じ一斉に巣穴に入ってしまう、その姿は見られないのだが……誠に有難い。

今後の例会や観察会が楽しみだ。

さて、干潟で今日の鳥合わせをして、本日のトリパト・フィールドスタッフの研修会は終了。参加者は笑顔で今日の幸運の数々を語り合った。

観察された野鳥

コゲラ、アオジ、エナガ、ハシブトガラス、ノスリ、オオタカ、ホオジロ、コジュケイ、アカハラ、シジュウカラ、ウグイス、アオサギ、ダイサギ、

トビ、キジバト、メジロ、ヒヨドリ、モズ、ハクセキレイ、ツグミ、ヤマガラ、アオゲラ、



